

## 《戯曲》

## 『カウンティング&amp;クラッキング』

作 : S. シャクティダラン

訳 : 佐和田敬司

(1幕1場・2場を掲載)

今回の『オーストラリア特集』は戯曲の紹介と研修をセミナーの柱としました。編集部では戯曲の一部でも参考として掲載できないかと考えました。作者のシャクティダランさん、出版社Currency Press、翻訳の佐和田敬司さん、日本のオセアニア出版社にご相談し、幸いにも快諾を頂き、冒頭の部分2場を掲載いたします。作者、翻訳者、出版社の皆さまに心より感謝申し上げます。

☆戯曲全体は、オセアニア出版社から発刊されていますので、ぜひご一読下さい。全国書店で注文により購入できます。

お問い合わせ先：oceania@ro.bekkoame.ne.jp

201

## 『カウンティング&amp;クラッキング』掲載戯曲集：

S・シャクティダラン、モリス・グライツマン、パトリシア・コーネリアス著、  
佐和田敬司訳

『難民たちの物語 カウンティング&クラッキング／  
ボーイ・オーバーボード～少年が海に落ちたぞ！』

(オーストラリア演劇叢書15巻)

オセアニア出版社 定価 (本体2000円+税)

ISBN978-4-87203-119-5

## 『カウンティング&クラッキング』

### 登場人物

#### 1 場

ラーダ (シダータの母、数学者) 〈タミル語・シンハラ語話者スリランカ人、48歳〉

シダータ (人文・メディア・スタディーズ専攻の学生) 〈20歳〉

僧侶 〈タミル語話者スリランカ人、90代〉

#### 2 場

シダータ

リリー (シダータのガールフレンド、法学部学生) 〈アボリジナル、20代前半〉

### 背景

1 場 2004年・ジョージズ川 (ハイ・パーク、リバプール、NSW) の河岸、

2 場 2004年・サリー・ストリート (ケージー、NSW)、

※台詞の《 》の付いたものは、タミル語です。

---

### 《1 幕 1 場》

2004年3月8日。夏。西シドニー。ジョージズ川のほとり。サリーを着たラーダと息子のシダータが、ラーダの母の遺灰を川に流すためにヒンズーの僧侶と共にいる。僧侶が地面に座る。彼はサンスクリットで詠唱する。

シダータは僧侶の隣に座る。小さな骨壺を手にはしている。ジーンズを履いているが、上半身は裸。Tシャツと靴は、近くに置いてある。

シダータは僧侶の詠唱を復唱するが、耳慣れない言葉に苦闘する。同時に僧侶は作法を、シダータに手ほどきする。

僧侶は詠唱を止め、立つ。シダータも、骨壺を手にしたまま立つ。

タミル語でラーダに。

僧侶 《一族の中の男性が、彼に加わるべきだ。》

ラーダ 《誰も居ません。》

僧侶 (骨壺を見ながら) 《あなたの母を知る誰かが。》

ラーダ 《あなたにお願いできないでしょうか。》

僧侶 《誰かを探して、明日、連れてきなさい。そのときこの儀式を終えよう。》

ラーダ 《誰も居ないんです。あなたは母をご存じだったでしょう。》

僧侶 (同意したように) 分かった。(シダータに、英語で) さあ。一緒に。

彼は川の中に入っていく。

シダータ 僕も一緒に？  
 ラーダ 川の中へ。  
 シダータ まじで？  
 ラーダ 質問しない。  
 シダータ 半ズボンにしとけば良かった。  
 ラーダ だいたいジーンズなんて。あなたのアマーマはウンザリしてるわよ。  
 シダータ ジョージズ川に入るなんて。きっと違法だよ。  
 ラーダ クンサヴィおばさんが母親のお葬式をここでやって、良かったって。  
 シダータ ああ、おばさんがそう言うなら・・・シャツ着て良い？  
 ラーダ その棒きれみたいな体、誰もみないと思うけど。  
 シダータ じゃあ着ていいんだね？  
 ラーダ だめ。さあ。行って。

シダータは僧侶を追って浅瀬に入る。  
 僧侶はサンスクリットで詠唱し、英語で、シダータに話す。

僧侶 オーケー、オーケー、さあ。

僧侶はシダータに身振り。シダータは困惑して、ラーダの方を見る。

203

(ラーダに)《遺灰を流すのだ。》

ラーダ (シダータに) 遺灰を水に流すのよ。  
 シダータ はい。  
 僧侶 (英語で) さあ。さあ。

シダータはゆっくりと、骨壺の中身を水に空ける。  
 シダータを見ずに、僧侶は骨壺を取り、川岸に戻る。

ラーダ もどって来なさい。  
 シダータ (岸に戻りながら) これで終わり？  
 ラーダ 質問しない！ そう。  
 シダータ これだけ。  
 ラーダ これだけ。良い子ねえ。どうして泣いてるの？ 私は泣いてない。  
 シダータ (泣きながら) 泣いてないよ。  
 ラーダ これで眠って貰える。服を着なさい。ほら。

彼女はバッグからタオルを取り出す。

なあに？ シダータ。

シダータ

なに？

ラーダ

言いたいことあるんでしょ。

シダータ

僕には何も理解できないんだよー

ラーダ

アーマはあなたを甘やかしてた。あなたが出て行くときも、アーマは何も言わなかったー

シダータ

アーマー

ラーダ

あなたの面倒を見てくれた。これで、アーマは休めるわ。これからは、私があなたの面倒をみなくちゃ。

シダータはシャツを着る。

うちに戻ってくる？

シダータ

アーマ・・・

ラーダ

ボンダイに引っ越して、半年ね。

シダータ

クージーだよ、アーマ。

ラーダ

ペンドル・ヒルの何が嫌なの？

シダータ

クージーは大学に近いんだよ。言っただろ。もっと勉強が出来るんだよ。

ラーダ

ところで、メディア・スタディーズって、どういうことやるの？

シダータ

アーマもう行かなきゃ。1週間後ぐらいに電話する／夕ご飯食べに寄るよ。

ラーダ

そう。

シダータ

喧嘩はしないよ。

ラーダ

行きなさい。

シダータ

来て良かった。

ラーダ

電車乗るのに、そのタオル持って行きなさい。ダメにしないでよ。優しく洗って、ちゃんとかえして。

シダータ

アーマ

ラーダ

行って。私はお坊様とお話があるから。

シダータ

近いうちに行くからね。(僧侶に) ありがとう。さよなら。

僧侶

さよなら、言うな！

シダータは困惑する。

ラーダ

タミルでは、さよならは言わないの。ただ、行って、帰る。

シダータ

そうなの。じゃあ行きます、そして(去りながら、ターミネーターのマネ) アイル・ビー・バック！

彼は行く。

ラーダ 馬鹿な子。

彼女は僧侶に50ドル札を2枚渡す。

《母は私と居るより先祖と一緒にの方が幸せだと思います。》

僧侶 ふうむ。

ラーダ 私を育てた人ではないんです。私は祖母に育てられました。それから家政婦のニヒンサにも—

僧侶 ラーダ。「十分だ」というジェスチャー) あの方はもう故国にいる。

ラーダ お坊様。21年前、私はスリランカを離れました、息子がまだお腹にいて、タッパーに入れた祖父の遺灰を持って。9年前には、父の遺灰を受け取りました、私の会計士に頼んで、スリランカに持って行って貰い、ケラニ川に撒きました。今日は、父の妻の遺灰がジョージズ川に注がれて、2人はまた一緒になることが出来ました。もう暴力も、亡命も、破壊もない。お坊様。祖父の遺灰は、21年間ずっと、私のベッドの下にあったのです。

《分かってます。祖父は怒っていたでしょう。》

《私は、戦いが終わるのを待っていたのかもしれませんが。ふたたび故国へ戻る前に・・・》

僧侶 アパの遺灰が、あなたのベッドの下に？

ラーダ 21年間です。お坊様・・・

彼女はバッグから小さなタッパーを取り出す。

お願いできませんか。

僧侶 《あなたの息子がやらなくては。》

ラーダ 《あの子には可哀想です。何も分かっていないのに。息子は今、オーストラリアにいます。クージーに。メディア・スタディーズを勉強しています。どういう意味でしょうね。スタディーズの勉強って。》

僧侶 《ラーダ、すまないが。》

ラーダ 《何ですか？》

僧侶 《正しく執り行わなくてはならない、正しい時に。だからだめだ。》

ラーダ 《正しいときが、間違ったときだったんです。》

僧侶 《また正しい時が来るまで待ちなさい。》アパは私の友人だった。だからだめだ。

ラーダ 《お坊様・・・》

車のクラクション。

僧侶 《甥がウールワースに連れて行ってくれるのです、スーパーマーケット。運転が荒くてね。父親譲りで。》

ラーダ 《分かりました。》

僧侶 《では、また》

ラーダ 《では》

僧侶は行こうとする。

バンクスタウンのアルディというスーパーに行かれては。ずっと安いですよ。

僧侶は行く。ラーダはタッパーをバッグに戻す。

《2人だけになってしまったわね、お祖父様。》

## 《2場》

2004年、翌日の夜明け前。クージーのサリー・ストリート、遠くにパーティーの音。シダータとリリーはパーティーから出て、公園へ歩いて行く。2人とも酔っている。シダータは大麻を巻く。興奮している。

シダータ 相手と喋っていても、相手のことをみちやいない。漠然とイメージを見るだけ、本当は何者かなんて、見てないんだよ。すぐに・・・

彼は携帯を取り出す。

・・・小型カメラとかテレビがついた携帯を持つようになると、僕らは一相手に対してシミュレーションをするだけになる。ボードリヤールの言う、シミュラクル。携帯持ってきてくれる？（それを彼女に向かって放る。）ありがとう。それは、人間がなんとか共に生きるための唯一の方法かもしれない、もし僕らがみんな自分の仮想現実の中で生きているなら。小さくて、孤独で、プライベートな宇宙たち。ところで、一緒に踊ってくれてありがとう。ダンス上手いんだね。

リリー 君のダンスも大胆だった。  
 シダータ ありがとう。

彼は巻いた大麻をジーンズのポケットに入れ、自分のライターを探り始める。

僕らは分断されている。ええ・・波に呑まれるのを、待ちながら。ええと、元の言葉とちょっと違うけど・・ジョンなんかが言ってる・・「我々は容赦のない、期待しない目で待っている・・」

リリー 引用ね？  
 シダータ 「一市民の容赦のない、期待しない目で。その目は、一般的に統率者への敬意を欠いているが、その現実に対してどうすべきかについてはよく理解していない」  
 リリー じゃ、これはどう？「我々は、国家権力が抑制された政治システムの構築に成功した。この成功は、権力は唯一、権力によって制御可能だという認識によるものである」  
 シダータ わーおー。それは誰が言ったの？ トーマス・ジェファソン？ リンカーン？  
 リリー え？ 違う！  
 シダータ 毛沢東？ トロツキー！ フーコー！  
 リリー ばーか。上院議員が登院するときに聞く言葉。  
 シダータ 君は法学部だ。  
 リリー 大当たり。  
 シダータ 僕の専攻分かる？  
 リリー あきらかに文系だよな。  
 シダータ アーツ&メディア・スタディーズ。  
 リリー それって何なの？

シダータの携帯が鳴り始める。

シダータ なんでみんなそれ聞くのかな。  
 リリー 携帯鳴ってるよ。  
 シダータ 大丈夫。アーマだから。  
 リリー 誰それ？  
 シダータ アーマ。母さんって意味。  
 リリー じゃあ出なよ！  
 シダータ 典型的なスリランカ人の母親！ 四六時中心配ばっか。朝の五時に電話してきて、僕の無事を確かめようとする。  
 リリー スリランカのお母さんはそれが普通なの？  
 シダータ ごく普通、僕の経験ではね。でも、いや、やっぱ違うな、スリランカの母

親の中でも度を超えてる。ライターある？

リリー あたしの中にもスリランカ人と同じものあるんだよ。

シダータ 君に？！

リリー ある日、遺伝子学者があたしたちの所へ来て、口の中から綿棒で標本取ったの。そしたら数ヶ月後、あたしたちにスリランカの遺伝子があるって。

シダータ いつから？

リリー 4千年ぐらい前から。

シダータ まじで！

リリー だよね！

シダータ じゃあ、スリランカ人の漁師かなんかが、4千年前に、オーストラリアまでやってきてたって事？

リリー もしかしたらね。おばさんたちは、彼らが商人だったんじゃないかって。

シダータ イギリス人が来る3800年前だよ。

リリー うん・・・

シダータ へええ。こっちが先だぞ、白人さんよ。

リリー なに？

シダータ あ、ごめん馬鹿なこと言っちゃってー

リリー お母さんの話してよ。

シダータ (笑いながら、守りに入って) ええ？

リリー だから！ お母さんの話してよ。

シダータ (笑いながら) といわれても。僕の母さんで。喧嘩して。僕が家出て。話しなくなって。わかんないよ。

リリー なんで家を出たの？

シダータ しょっちゅう喧嘩するから。

リリー なんで喧嘩するの？

シダータ (笑いながら) しらないよ。僕はアーマと喧嘩するし。母さんは自分のアーマと喧嘩してた。そういうもんなの。

リリー 話さなくなったのに、なんで電話かけてくるの？

シダータ それは、アーママが病気になって――

リリー アーママ？

シダータ 母さんの母さん。

リリー アーマのアーマ。

シダータ そう。

リリー それでどうなったの？

シダータ どうして知りたいのさ？！

リリー ほらあ。まつげ。どうして君のアーマは、アーマのアーマと喧嘩してたの？

シダータ しらない。

リリー アーママに聞いてみなよ。

- シダータ 死んじゃったよ。2、3日前に。
- リリー ごめん。
- シダータ いいんだよ。その時が来たって事。僕はアマーマのことが大好きだった。名前はダマヤンティ。いつも青い服を着て。僕に甘くて。決して昔のこと言わなかった。ただ死ぬ前に、僕の方に体を傾けて、こうささやいたんだ。「お前の両親が結婚して、ただ1つ良かったのは、お前が生まれたことだよ」って。
- リリー お父さんはどうしてるの？
- シダータ 居ないよ。死んだ。
- リリー ごめんね。
- シダータ いいよ。僕が生まれる前だから。
- リリー お父さんもスリランカ人？
- シダータ たぶんね。名前はティルー・シヴァクマ。知ってるのはそれだけ、パスポート取るとき、アーマが僕の出生証明書見せてくれたから。
- リリー じゃあ君はどこで生まれたの？
- シダータ ここだよ。リバプール病院。1983年。アーマは、僕がお腹にいるときに、オーストラリアへ来た。そういうこと、分かった？ 以上！
- リリー お母さんに聞けば良いのに――
- シダータ 君が聞きなよ！
- リリー そうするわ。
- シダータ 僕は聞かない。アーマはブラックホールだ。へたに近づくと――寒いな。寒くない？
- リリー じゃあ、君はタミル？ それとももうひとつの、何だっけ――
- シダータ シンハラ。僕らはタミル。マイノリティ。でも僕の名前はシンハラ語。で、僕はタミル語喋れないし、スリランカにも行ったことない。まわりは英語だらけ、シンハラ語は名前だけ、あとは下手くそなスペイン語。とんでもないスリランカ人だよ。ムイ・テリブレ（スペイン語）！
- リリー （温かく）ばかね。
- シダータ 今日はアマーマの葬式だった。僕はサンスクリットを唱えて、アマーマの遺灰を、ジョージズ川に流した。アーマが、死ぬ前に教えてくれるかもって思ってた。

間、彼は少し震えて、両腕をこする。

- リリー その遺伝子学者。「あたしたちの所」に来たって、言ったよね。それどこ？
- リリー いちばん北。ヨルング。
- シダータ アーネムランド。海水の民。
- リリー そう。家族は皆、イルカラにいる。

シダータ イルカラ。タミル語みたいだな。イルカラのこと教えてよ。  
リリー ああ。赤い土。ひと気のない海辺。  
シダータ それだけ。  
リリー ワニ。サメ——  
シダータ そう、人を食べる動物がいっぱい、満天の星。広告で見たことある。君の故郷のこと話してよ。

リリーは彼を探るように見る。

リリー あたしのナマラ——産んでくれたお母さんのことね——星の絵を描く人。  
シダータ うん。  
リリー むかしあたしに、物語を描いてくれた。天の川の。こんな・・・空にある大きな河。

リリーは2人の上に、円を描く。

あたしたちが永遠に暮らすところ。みんな小さな魚で、そこで泳いでる。

リリーはたくさんの小さな十字で、その円を満たす。

シダータ うん。  
リリー そして地上に降りるときが来ると、自分の両親を選ばなくちゃならない。君の場合は君のアーマを選んだわけ。  
シダータ へえ。  
リリー 銀河から降りてきて、選んだ両親の元へ泳いでいく。そして自分の人生を生きる、この地上で・・・でも最後には、あたしたちは帰って行く——自分のラーパン、美しいカヌーで——バラルク、空にあるあたしたちの島へ。  
シダータ 戻っていくんだ——天の川に？  
リリー そう。  
シダータ ふうん。  
リリー なに？  
シダータ えっと・・・星とか惑星とか、みんな動いてるでしょ？ ほら。

彼は立ち上がる。間。

まさにこんなふうに——（彼はじっとしている。）僕らは、いま、宇宙を漂ってる。ずっと動いてる。でしょ？

リリー うん・・・

シダータ アマーマによると、星の塊とか銀河って、空のイルカなんだって。で天の川がイルカのおなか。そして、こういうすべての動きとか？ 星の流れとか？ アマーマはそれを空のガンジス川って呼んでた。

リリー じゃあ、あたしたちはバラルク。あなたたちはガンジス川だね。

シダータ 水と水。アマーマはよく言ってた。水と水。地上、空の上——（彼は体を傾け、彼女の腹を触る）そしてここも。すべて、1つなんだよ。

彼女は頷く。  
2人はキスをする。

リリー 日が昇ってく。

シダータ あ、君の名前、まだ知らない。

リリー リリー。ヨルングの言葉ではユマリル。

シダータ ハーイ、ユマリル。僕はシダータ。

リリー シー——なに？

シダータ シダータ。仏陀が、仏陀になる前の名前。

リリー ハーイ、シダータ。

シダータ 今日って何日？ リリー。

リリー 3月9日。

彼は携帯を見て、それから彼女を見る。

シダータ 2004年、3月9日、午前5時。

リリー そう。

シダータ 2004年、3月9日、午前5時。